

議会運営委員会、議会改革検討特別委員会 合同行政視察報告書

議会運営委員会、議会改革検討特別委員会では、令和元年7月29日（月）から31日（水）までの3日間で、熊本県荒尾市、広島県呉市、大阪府八尾市に下記の調査事項をもって行政視察を行いましたので概要を報告いたします。

出張命令者：焼津市議会議長 鈴木浩己 様

報告者：須崎章

1 視察参加者

(1) 議会運営委員会

委員長：渋谷英彦 副委員長：池谷和正

委員：須崎章、村松幸昌、太田浩三郎、深田百合子

*欠席：川島要

オブザーバー：鈴木浩己、石田江利子

(2) 議会改革検討特別委員会

委員長：渋谷英彦 副委員長：池谷和正

委員：村松幸昌、杉田源太郎、杉崎辰行

*欠席：川島要

2 調査項目

(1) 7月29日（月）：熊本県荒尾市議会

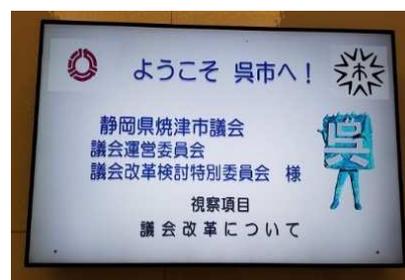
- ① 議会の休日夜間開催について
- ② 議会運営・議会改革の取組について

(2) 7月30日（火）：広島県呉市議会

- ① 議会報告会について
- ② 議会運営・議会改革の取組について

(3) 7月31日（水）：大阪府八尾市議会

- ① 予算決算審査の流れについて
- ② 議会運営・議会改革の取組について



7月29日（月）熊本県荒尾市

荒尾市概要

- ・市域面積：57.37 km² 人口：51,930人（平成30年10月1日現在）

荒尾市議会の構成

- ・定数18名（令和元年5月の統一地方選による改選）
- ・常任委員会以下の4委員会を設置している。

総務文教常任委員会（6名）	}	行政の組織割りで議案を審査
市民福祉常任委員会（6名）		
産業建設常任委員会（6名）		
財務常任委員会（18名）	⇒全議員で構成	予算決算に関する審査

- ・議会運営委員会⇒議会運営に関すること及び議会改革に関すること
- ・協議、調整の場

全員協議会、会派代表者会議、委員協議会、正副委員長会議、広報広聴委員会

- ・現在、特別委員会は設置されていない。

1 議会の休日夜間開催について

(1) 本会議の休日・夜間開催

休日議会については、平成28年1月臨時議会を土曜日に開催した。これは当局と日程調整がつかなかったため、やむを得ず土曜日に開催したものであり、目的を持って休日議会としたものではない。



夜間議会

実施年	傍聴者数	ライブ中継アクセス数
平成27年	103人（男性39人、女性64人）	未実施
平成28年	57人（男性29人、女性28人）	342件
平成29年	27人（男性11人、女性16人）	483件
平成30年	32人（男性14人、女性18人）	158件

- ・平成27年当時、インターネット中継が未実施であったことから、市民に傍聴に来ていただく試みとして夜間議会を実施した。
- ・夜間議会の開催は、気候的な理由から9月定例会が妥当と判断し、内容は3日間予定されている一般質問のうち1日を夜間（午後6時開議）に

充てることとした。

- ・午後6時開議のため、登壇者は3人に限定する。
- ・平成27年に傍聴者数が多いのは、当時はインターネット中継が未実施であったことに加え、病院建設の問題で市民の関心が高かったためと分析している。
- ・ライブ中継のアクセス数は減少傾向にあるが、夜間議会は3人の議員しか登壇しないにもかかわらず、これだけのアクセス数があるということは、市民に一定数の関心があるものと分析している。
- ・課題としては、荒尾市は職員のフレックスタイム制を導入しているが、一般質問期間中はフレックスタイムの適用は事実上不可能であること、職員の拘束時間が長くなることで、健康面や残業代などの費用対効果が上がらないこと、また夜間に市民が傍聴に来ていただくにあたり、交通手段が限られることなどが挙げられる。
- ・令和元年は、夜間議会の実施を全員協議会で諮ったところ、上記のような事情により、実施しないと決定した。

2 議会運営・議会改革の取組について

(1) 議会改革の推進

- ・平成23年5月に議会改革推進特別委員会が設置されてから、本格的に議会改革の流れが始まった。
- ・議会改革とは、現状分析の上、不足している部分を改革していくのが筋であるが、当時は全国的に「議会改革」ブームであり、トップダウンで多くの改革事項が決定された感がある。
- ・議会報告会は平成25年から公民館で実施したが、参加者が少ないことから、平成27年に実施方法を見直し、市民が参加しやすいように市内のショッピングセンターや議場で実施した。内容も市民から出された請願や陳情、予算決算審査の内容報告とした。平成30年に再び見直し、前半は議会からの報告、後半は議員と市民との意見交換としたところ好評であった。



(2) 財務常任委員会（予算決算審査）について

- ・全議員で組織する財務常任委員会に予算と決算の議案を付託し、議案の細かな審査は、組織割りの常任委員会を分科会として活用し、集中的に審査している。
- ・議員間討議は、3月の当初予算審査及び9月の決算審査について行ない、最後の全体会には、市長も出席していただき総括質疑を実施している。
- ・総括質疑を実施することで、前年度の決算の審議の内容が、翌々年度の当初予算にいかに関与されているかを確認できる仕組みになっている。
- ・補正予算議案が少ない6月定例会においては、分科会で集中審議、委員長報告という流れでなく、財務常任委員会において全議員で審議する方法を検討している。また、分科会で審議する必要があるか否かを判断する組織の設置も検討している。

3 参考となる事項

- ・休日・夜間開催については、慎重に多面的な事項について議論を深め、十分に検討する必要性を感じた。
- ・予算決算委員会については各分会で集中審査をし、3月の当初予算や9月の決算審査では最後の全体会で市長も出席し総括質疑を行っている。この決算審査については、前年度決算審議の内容が新年度予算に反映されているかチェックが出来、議員も市民も理解しやすい取り組みとなっており参考になる。
- ・議会報告会については、議会が地域に出向いて実施したりして、より一層の開かれた議会への改革と行政監視能力の向上に努める必要があると考える。



熊本県荒尾市議会 議場にて

7月30日(火)：広島県呉市議会

呉市概要

・市域面積：352.81 km² 人口：223,685人（平成31年3月末現在）

1 議会報告会について

- ・平成22年に議会基本条例を制定。その第10条に議会報告会を行う旨を明記し、以後毎年実施している。
- ・議会報告会は、各常任委員会単位で行なう。
- ・議会報告会の流れ 以下のPDCAサイクルが確立されている。
 - P) 協議の場として「政策研究会」を設置し、ここで議会報告会の企画及び検証を行う。政策研究会で前年の検証を踏まえ、今年度の方針を決定し、各常任委員会委員長へ伝達する。
 - D) 政策研究会からの伝達を基に、各常任委員会で議会報告会の準備や練習を経て、議会報告会を実施する。
 - C) 各常任委員会で議会報告実施後、報告書をまとめや検証を、まずは各常任委員会単位で行ない、成果を政策研究会に提出する。
 - A) 政策研究会が各常任委員会からの検証結果を取り纏め、次の議会報告会を企画する際に役立てていく。
- ・開催状況

年度	実施個所数	実施時間	参加者数
平成22年度	市内2ヶ所	90分(報告60分、意見交換30分)	273人
平成23年度	市内16ヶ所	90分(報告45分、意見交換45分)	858人
平成24年度	市内16ヶ所	90分(報告30分、意見交換60分)	593人
平成25年度	市内16ヶ所 4団体	90分(報告30分、意見交換60分)	572人 一般490人 団体82人
平成26年度	市内16ヶ所 4団体	90分(報告30分、意見交換60分)	691人 一般573人 団体118人
平成27年度	市内16ヶ所	90分(報告30分、意見交換60分)	455人 一般369人 団体86人

平成 28 年度	市内 10ヶ所 4 団体 1 高校	90 分 (報告 30 分、意見交換 60 分)	534 人 一般 255 人 団体 124 人 学校 155 人
平成 29 年度	市内 10ヶ所 6 団体 5 高校	90 分 (報告 30 分、意見交換 60 分)	1,643 人 一般 161 人 団体 151 人 学校 1,331 人

- ・平成 25 年度から、各常任委員会に関連する団体と意見交換を実施。
- ・平成 28 年度から、選挙年齢の引き下げに伴い、主権者教育の一環として市内の高校と意見交換を実施。
- ・今後の課題
 - ア) 一般の参加者が減少しているため、参加者を増やすための工夫が必要。
 - イ) 参加者の年齢層は、50 代、60 代が 9 割を占め、若い人の参加が少ない。若い世代の参加者を増やすための工夫が必要。

2 議会運営・議会改革の取組について

- ・平成 22 年 6 月 25 日に呉市議会基本条例を制定し、公正、透明で市民に開かれた議会を目指し、継続して議会改革に取り組むことを明記。
- ・議会改革に関する特別委員会は設置されていないため、議会運営委員会で議会改革に関する検討項目を洗い出し、検討している。議会改革は以下の 4 つの原則に基づく。

1 市民に開かれた議会の実現

- ・インターネット中継の開始
- ・全ての行政視察報告をホームページで公開
- ・議会広報紙「チーム議会くれ」の発行 など

2 市民に対する説明責任の履行

- ・政務活動費の使途基準を明文化
- ・議員定数条例改正のための意見交換会の実施

など

3 市民意見の把握と市政への反映

- ・議会報告会の実施
- ・意見交換会の実施 など

4 市民に対するわかりやすい議会の実現

- ・一般質問及び議案質疑に一問一答制を導入



- ・電子表決システム導入による採決結果の見える化 など
- ・特徴ある取組（議会の機能強化）

議会図書室改革

目的

強い議会を支える使える議会図書室をつくる。

コンセプト

重要なのは、図書室の規模ではなく、レファレンス機能（調査相談機能）

- 1 蔵書の充実と資料の収集
 - ・図書購入費の増額
- 2 他の図書館との連携
 - ・市立、県立図書館及び大学図書館との連携
- 3 議員への積極的な情報提供
 - ・議会図書室情報誌の発行
 - ・一般質問に使える特集棚の設置
- 4 レファレンスサービスの強化
 - ・常設の図書司書（嘱託職員1名）を配置



取組の成果

- ・一般質問をした議員の約半数が議会図書室のレファレンス機能を活用。
- ・各委員会の所管事務調査や視察先の選定で利用。
- ・議員だけでなく、市職員や一般市民の利用がある。

今後の課題

- ・レファレンス機能を高めるため、新たな連携先の確保。
- ・司書のスキル向上。
- ・市民の政治参加のための情報拠点となるような整備。

3 参考となる事項

- ・議会報告会については平成 22 年より実施されており、毎回アンケート調査を実施され多くのデータを構築し、次回開催までに改善点を洗い出し常に参加者を意識している。平成 28 年より意見交換を重視し、一般開催の数を減らし、関係団体の個所数を増やした。また、将来の社会担う高校生などに向けた議会の仕組みなど新たな世代に議会との接点を作る取り組みは参考になった。

- ・ P D C Aが確立されて、議会報告会を企画する際に役立てている。
- ・ 議会図書室の改革については大いに考えさせられました。図書司書の配置により、レファレンスサービスの強化、強い議会、一般質問の強化等議員の知的拠点としての役割がある。



広島県呉市議会 委員会室にて研修



議場にて

7月31日(水)：大阪府八尾市議会

八尾市概要

- ・ 市域面積：41.72 km² 人口：266,593人(平成31年4月1日末現在)

1 予算決算審査の流れについて

ア 予算決算常任委員会の設置経過

予算については、各常任委員会に分割付託している状態であったが、平成25年に実施した議員研修の講師から、分割付託は「議案一体の原則」にそぐわない旨の指摘があった。

決算については、9月定例会末日に決算審査特別委員会を設置し、閉会中継続審査の議決を経て審査をしていた。審査する委員は、限られた7人の議員(会派代表)のみであったため、委員会による専門性が発揮できない状態であった。また、12月定例会初日に決算審査を認定する流れであったため、日程的に決算審査の内容を直近の予算編成に反映できなかった。

平成25年度

- ・ 予算決算審査の委員会設置に向け検討開始
- ・ 委員会概要について、議員へ説明

平成26年度

- ・ 予算決算常任委員会の設置の決定、申し合わせ事項の決定
- ・ 委員会条例を改正し、予算決算常任委員会を設置

イ 予算決算常任委員会設置の効果

- 予算決算議案を予算決算常任委員会に付託することで、議案一体の原則に適合。
- 予算と決算の議案を各常任委員会単位の分科会で審査することにより、予算と決算を踏まえた長期的、継続的な視点で審査ができるようになった。また、全議員での審査とすることで、議会のチェック機能の強化に繋がった。
- 決算審査を9月定例会の会期中に行うことすることで、決算審査の内容を直近の予算編成に反映できるようになった。
- 年間の会議時間が減ることで、執行部の待機時間が減り、時間外勤務等の支出が減少した。



2 議会運営・議会改革の取組について

八尾市議会では議会の権能強化には取り組んでいたが、市民への周知ができておらず、住民参加という部分で市民と議会との間に距離があった。議員は議会活動を懸命にやっているが、市民がそれを知らない状態であったため、以下のような市民、特に若い世代に議会を身近に感じてもらう取組を実践した。



• まめっこ議会

対象は市内小学生。議員が議会の取組を紹介し、意見交換をとおして、市議会への理解と関心を高めることを目的とした取組。

• 18歳の選択「やお未来議会」

対象は18歳の学生。選挙年齢が18歳以上となることから、新たに有権者となる学生に選挙制度や議員との意見交換を通じて、市議会や市政への関わりについて考えてもらうことを目的とした取組。

• 市議会×高校生プロジェクト

対象は高校生。市議会だよりの表紙や題字を高校生から募集したり、高

校生にアンケートを実施し議員が回答する特集記事を市議会だよりに掲載したり、生徒会と議員との意見交換を行うことで、若い世代に議会へ関心を持ってもらうことを目的とした取組。

・ Meet&Greet with 八尾市議会

議会だより編集委員会の議員7名と市内5高校の学生24名で、議会の広報をテーマに座談会を実施した。学生の意見を議会だよりに反映させると共に議員との意見交換をとおして議会を身近に感じてもらう取組。

- ・その他にも、「八尾っ子おしごと体験」「八尾河内音頭まつり議会」「防災・河内音頭まつり議会」「八尾市議会ビジョンフォーラム2050」「近畿大学でパネルディスカッション」「大阪経済法科大学との地域連携」「議会開会ポスター」など、多くの取組実績がある。

3 参考となる事項

- ・ 予算決算常任委員会の設置については、予算と決算を踏まえた長期的継続的な視点で審査ができ、全議員体制での審査による議会チェック機能の強化、審査時期を前倒しにしたことで、次年度予算に決算の意見を反映でき、毎年度特別委員会を設置する必要がなくなり事務の効率化につながったなどメリットとしてあげられていた。
- ・ 「18歳の選択（やお未来議会）」「防災・河内音頭議会」「市議会×高校生プロジェクト」「八尾市議会ビジョンフォーラム2050」等を行なっている。
- ・ 市議会だよりにについては、市民や学生を巻き込んだ誌面づくりには興味を持ってました。



阪府八尾市議会 議場にて